

性同一性障害の子どもをもった親として

令和4年6月7日(火)、14日(火)、7月15日(金)

特定非営利活動法人 性同一性障害 まりあの会

理事長 石川 直子

私は、性同一性しょうがい（GID:トランスジェンダー）の子どもを育ててきました。名前はまりあといひます（現在は石川宗）この世に三人姉妹の末っ子として生を受けました。まりあの名前の由来は元連れ合いの大好きな歌手矢沢永吉さんの曲名です。よくクリスチャンですか？と尋ねられます。

まりあは、健康体で生まれてきました。生後二か月の頃、上の二人の子どもたちとは明らかな違いを見つけました。胸が大きかったのです。ホルモンのバランスがおかしいのではないかと考えまだ赤ちゃんだったので出産した病院で受診をしました。その時の診断は、母乳を飲むことでホルモンの影響が考えられるとのことでした。

3歳のころまりあから“おかあさんは、まりあが男の子だったらしあわせ？女の子だったらしあわせ？”と、聞かれその足で小児科へ駆け込みました。この時、まりあの中で、男・女という自覚始まっています。性同一性しょうがいとしての認識としてはかなり早いことだったと思います。私は、上の子どもを育てながら何が違う？という違和感を感じていました。

まりあは性同一性しょうがいでもありますが脳脊髄液減少症（低脳脊髄液圧症）という病気（後遺症）も3歳のころから患っていました。脳脊髄液減少症（低脳脊髄液圧症）、最近言葉として聞く機会がありますが、まりあが幼い頃は認識されていない病気でした。母親である私にも理解されず、二重苦ともいえる状況で10歳まで心に重りをつけたように誰にも理解されず生きてきました。ようやく10歳の時に脳脊髄液減少症（低脳脊髄液圧症）という病気が存在することをTVで知り、全国で治療できる病院を探しました。やっとやっと原因が分かった時には、病気の症状が出てから7年が経過していました。治療を一度終えた現在は、差しさわりのない状態で生活する日もありますが天気によってはできない日もあります。

今、考えればこの病気のおかげで性同一性しょうがいであっても今まで生きてこられたのかもしれませんが、他の子どもたちとは何かしらの違和感を感じ違うことは分かっている自分の中では把握できずにいました。この鹿児島という閉塞的な地方土地柄で性同一性しょうがいとして生きていくことはまず出来ないと頭から考えていました。まりあの個性を自由に表現させながらも言いようのない不安と恐怖がいっぱいの日々を過ごしてきました。まるで、隠れキリシタンのようにまりあを守りながら世間（規範・常識・画一・規格…）というような目から逃げ隠し守ろうとする自分がいました。

中学1年生の夏を迎えるころ“苦しい”と心の内を告げられました。その言葉に私はどうしようもない不安と感じたことのない恐怖を感じ、苦しくてどのように受け止めればよいものか？暗闇の中で“だれか助けて…！”と叫びたくなるような日々でした。でも一番叫びたかったのは、まりあ本人だったと思います。今だから話してくれましたが何とも言えない恐怖と不安の環境が日々襲い自傷行為や自殺願望などと戦ってきたそうです。そんな中でもまりあは、本当に優しい強い子どもに成長してくれました。ときどきどうしようもない衝動に駆られ理性を失う時もありますが平衡感覚をもった子でもです。

そんな中NHKの“ハートをつなごう”に出演している杉山文野くんと偶然の出会いがまりあの人生を劇的に変えました。

中学校1年生2009年（H21）の夏でした。“苦しい”と訴えるまりあのこれからの、どうにか出来ないものか…。泣きながらパソコンに向かって検索していたら見つけました！「GIDmedia」という自助グループでした。（現在は、NPOを解散しています）こんな人たちが生きていける空間があるのだと知りました。そこから見つけたのが、杉山文野くんでした。数日後、鹿児島に来ることを知りました。“この人に

会えれば、まりあは生きていける”と、確信し連絡しました。7月11日当日、まりあが文野くんと出会ってから私に話してくれた言葉は一生忘れられない言葉として残りました。“おかあさんやパパとは違う自分とおんなじ人間に会えた！”と、喜ぶまりあの言葉に、私は、本当に打ちのめされました。私たちは家族だと思って生きてきました。それが“おかあさんやパパとは違う・・・”と、言われた時まりあの孤独を知りました。

私は、まりあの本当の苦しみを知らなかったのです。あの子が、一人ぼっちだと知らなかったのです。その時から、覚悟を決めました。必ずまりあが生きていける道を見つけよう…！と。絶対に一人ぼっちにはしないと決めました。それが、今私が性同一性しょうがいの子どもの母親としてお話ししている原点でもあります。

2010年(H22)2月に東京都御茶ノ水にある『はりまメンタルクリニック』の針間先生より性同一性しょうがいであるとの診断書をいただきました。その年の4月から(中2)男子の制服で通学出来るようになりました。女子中学生として入学し在学中に男子中学生として全国で初めて卒業することができました。この出来事はいろいろな方々のお力添えで叶ったことでした。

2012年(H24)4月から情報高校へ男子生徒として入学し在籍中もすべて男子生徒として扱って頂き卒業することができました。2012年2月高校入学前に本人の希望により胸の全摘手術も終わりました。7月からは大学病院で倫理委員会を開いていただきホルモン治療も始まりました。2014年(H26)7月からは男性ホルモン注射を行い泌尿器科GID外来にて継続して男性ホルモン注射治療が始まりました。日々変わっていくまりあを見ることは複雑ではありますが、これが本来あるべき姿に変わっていくのならと幸せに感じることもあります。

私は、まりあを生んだこと出会ったことで自分の人生をより深い意味のあるものにしてくれたのだと感じています。ただなぜ？まりあだったのか？長女や次女も同じように性同一性しょうがいなら何の疑問も感じなかったでしょうが、まりあだけなのかが払拭されず今に至っています。現在、私の眼から見た性同一性しょうがいの子もたちは増え続けているようにみえます。他にも自閉症、学習障害の子もたちもとても多く、そのような子どもたちを取り上げたテレビ番組をよく見かけるようになりました。まりあの存在が認識され広い意味で社会に受け入れられ言い出し易い環境が出来たからでしょうか？

私は、ある問題の危険性をお伝えしたいと考えています。日常的に口にし、使われている日用品に含まれる環境ホルモン、添加物、化学薬品などが人体にどれほど影響を及ぼしているのか？関係性があるのか？何かしらの影響が報告されている事実だけはお伝えしていきたいと考えています。

性同一性しょうがいの当事者を取り巻く環境は日々変わってきていますが、いくら変わっても当事者の苦しみは変わらないものもあります。どうか、この性同一性しょうがいが自分の体のことだったら、自分の子どもだったら…、兄弟だったら…、あるいは親戚だったら…、友だちだったら…と、考えて受け止めてみてください。

私は、まりあのお母さんでもありますが、同じ性同一性しょうがいの子もたちを支える理解ある大人でありたいと考えています。どうか、偏見などもたずに広く多様性の視点で考えてください。同じ地球に生まれた魂の同志だと受け止め共に歩んでください。

今日のお話が皆さまを通じ、今もなお苦しんでいる、親御さんや当事者の方々に届きますようにそしてこれから出会うこどもたちにと願い、今日お話し出来た機会・恵みに深く感謝申し上げます。

本日の講演はいかがだったでしょうか？何かしらのご質問、ご相談などありましたら下記の連絡先にご連絡下さい。

〒891-0150 鹿児島市坂之上三丁目 27 番 18 号

NPO 法人性同一性障害 まりあの会代表 石川 直子

TEL090-3077-6508 MAIL nkdisk0715@gmail.com